

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第43期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 伊豆シャボテンリゾート株式会社

【英訳名】 Izu Shaboten Resort Co.,Ltd

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 北本 幸寛

【本店の所在の場所】 東京都港区南青山七丁目8番4号

【電話番号】 03-5464-2380

【事務連絡者氏名】 経営企画室室長 桑原 亮介

【最寄りの連絡場所】 東京都港区南青山七丁目8番4号

【電話番号】 03-5464-2380

【事務連絡者氏名】 経営企画室室長 桑原 亮介

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第42期 第1四半期 連結累計期間		第43期 第1四半期 連結累計期間		第42期	
	自 至	平成28年4月1日 平成28年6月30日	自 至	平成29年4月1日 平成29年6月30日	自 至	平成28年4月1日 平成29年3月31日
売上高 (千円)		588,962		647,547		2,964,260
経常利益 (千円)		40,326		67,635		444,672
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)		79,292		69,509		478,489
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		85,106		69,555		481,261
純資産額 (千円)		907,353		1,372,954		1,303,470
総資産額 (千円)		1,630,295		2,033,011		2,106,316
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)		2.78		2.44		16.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		-		-		-
自己資本比率 (%)		55.7		67.5		61.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、当第1四半期連結累計期間より報告セグメントを単一セグメントに変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1（四半期連結財務諸表）注記事項 セグメント情報等」に記載の通りであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は企業収益や雇用環境の改善等、緩やかな景気回復の動きが見られ、個人消費についても持ち直しの傾向が続いております。一方、米国の政策運営やアジアにおける地政学的リスクの高まりなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社が展開する各レジャー施設では、経営理念である「ステークホルダーと共に」及びブランドスローガンである「ご来園者の笑顔のために」の元に、各施設の入園者数と売上確保に努めております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高6億47百万円（前年同四半期に比べ9.9%増）、営業利益47百万円（前年同四半期に比べ28.6%増）、経常利益67百万円（前年同四半期に比べ67.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益69百万円（前年同四半期に比べ12.3%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間の概況は次のとおりであります。

レジャー事業については、当社施設の駐車場の駐車台数を増加いたしました。伊豆シャボテン動物公園においては400台と倍増、伊豆ぐらんぱる公園においては1,000台の駐車スペースを確保し、大勢のお客様をお迎えする準備を整えることが出来ました。

伊豆シャボテン公園では、カピバラやブラウンキツネザル、マーラの赤ちゃんが誕生し、又国内で唯一放し飼いをしているハシビロコウの来園記念イベントを行うなど、多彩な動物達が集客に努めました。

伊豆ぐらんぱる公園では、船形立体迷路~KAIZOKU~がコースをリニューアルし、リピーターのお客様にも楽しんでいただけました。また、グランイルミではスモークを発生させ、エリアを取り囲むように6カ所からフルカラーレーザーを照射することにより、まるで伊豆の夜空にオーロラが舞うかのような幻想的な光景を出現させた「フルカラーレーザーショー360」という新しいショーが登場しました。

伊豆四季の花公園では、今回で11回目となる「城ヶ崎あじさいまつり」を開催し集客に努めました。
入園者数は356千人（前年同四半期に比べ1.5%増）となりました。

なお、当社は当第1四半期連結累計期間よりレジャー事業の単一セグメントへ変更いたしました。

(2) 財政状態の分析

1. 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて2億2百万円減少し、6億24百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1億70百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1億28百万円増加し、14億08百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が1億17百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて73百万円減少し、20億33百万円となりました。

2. 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億45百万円減少し、2億24百万円となりました。これは主として、未払金が53百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2百万円増加し、4億36百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億42百万円減少し、6億60百万円となりました。

3. 純資産

純資産合計は前連結会計年度末と比べて69百万円増加し、13億72百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の61.9%から67.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について、特記すべき事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,496,537	28,496,537	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。 完全議決株式であり、権利内 容に何ら限定のない当社にお ける標準となる株式です。
計	28,496,537	28,496,537		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年6月30日		28,496,537		100,000		186,500

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、該当事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等) (注1)	普通株式 20,800		
完全議決権株式(その他)(注2)	普通株式 28,229,000	282,290	
単元未満株式	普通株式 246,737		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	28,496,537		
総株主の議決権		282,290	

(注1) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

(注2) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が29,080株(議決権の数290個)含まれております。

(注3) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) (注)
伊豆シャボテンリゾート株式会社	東京都港区南青山7-8-4	20,800		20,800	0.07
	計	20,800		20,800	0.07

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、KDA監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	597,557	427,204
売掛金	66,562	25,001
未収入金	2,497	44
商品等	18,926	25,428
繰延税金資産	101,458	109,431
その他	40,025	37,645
流動資産合計	827,027	624,756
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	780,127	897,992
土地	269,655	269,655
その他	171,355	204,159
有形固定資産合計	1,221,138	1,371,807
無形固定資産		
ソフトウェア	6,877	6,038
その他	702	702
無形固定資産合計	7,579	6,740
投資その他の資産		
投資有価証券	10,900	10,946
長期化営業債権	12,156	12,156
破産更生債権等	754	754
その他	39,671	18,760
貸倒引当金	12,911	12,911
投資その他の資産合計	50,572	29,707
固定資産合計	1,279,289	1,408,255
資産合計	2,106,316	2,033,011

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	51,003	29,137
未払金	179,065	125,704
前受金	4,340	800
預り金	10,614	4,882
未払法人税等	41,127	6,383
賞与引当金	19,268	29,131
その他	64,292	28,014
流動負債合計	369,712	224,055
固定負債		
退職給付に係る負債	131,773	135,301
偶発損失引当金	272,564	272,564
その他	28,795	28,135
固定負債合計	433,133	436,001
負債合計	802,846	660,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	425,462	425,462
利益剰余金	792,936	862,445
自己株式	11,886	11,957
株主資本合計	1,306,512	1,375,950
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,041	2,995
その他の包括利益累計額合計	3,041	2,995
純資産合計	1,303,470	1,372,954
負債純資産合計	2,106,316	2,033,011

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	588,962	647,547
売上原価	210,489	241,551
売上総利益	378,472	405,995
販売費及び一般管理費	341,825	358,884
営業利益	36,647	47,110
営業外収益		
受取利息	0	37
受取賃貸料	3,058	295
受取手数料	212	385
保険解約返戻金	-	18,335
その他	618	1,488
営業外収益合計	3,890	20,543
営業外費用		
支払利息	30	18
その他	181	-
営業外費用合計	211	18
経常利益	40,326	67,635
特別利益		
固定資産売却益	2,410	-
新株予約権戻入益	7,586	-
受取保険金	21,855	667
特別利益合計	31,851	667
特別損失		
投資有価証券評価損	8,906	-
固定資産売却損	-	383
その他	0	-
特別損失合計	8,906	383
税金等調整前四半期純利益	63,272	67,919
法人税、住民税及び事業税	8,746	6,383
法人税等調整額	24,766	7,972
法人税等合計	16,020	1,589
四半期純利益	79,292	69,509
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	79,292	69,509

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	79,292	69,509
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,813	46
その他の包括利益合計	5,813	46
四半期包括利益	85,106	69,555
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	85,106	69,555
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

連結子会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
スイート・ベイジル(株)	115,362千円	114,363千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	30,433千円	28,761千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	455,091	186,500	198,388	11,918	828,062
当第1四半期連結会計期間末までの 変動額					
資本金の取崩	355,091	355,091			
その他資本剰余金からその他利 益 剰余金へ振替		116,057	116,057		
親会社株主に帰属する 四半期純利益			79,292		79,292
自己株式の取得				4	4
自己株式の処分		25		29	3
当第1四半期連結会計期間末までの 変動額合計	355,091	239,008	195,349	24	79,291
当第1四半期連結会計期間末残高	100,000	425,508	393,738	11,893	907,353

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	エンター テイメント 事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	581,813	7,149	-	588,962	-	588,962	-	588,962
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	244	1,010	30,300	31,554	9,000	40,554	40,554	-
計	582,057	8,159	30,300	620,517	9,000	629,517	40,554	588,962
セグメント利益又は 損失()	34,998	12,600	15,378	37,776	1,128	36,647	-	36,647

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 売上高の調整額 40,554千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

当社グループの事業セグメントは、レジャー事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、従来「レジャー事業」、「エンターテイメント事業」、「投資事業」の3事業を報告セグメントとしておりましたが、当第1四半期連結累計期間より単一セグメントに変更しております。

エンターテイメント事業の売上の減少等により、当社グループの事業展開及び経営管理体制の実態等を勘案した結果、事業セグメントは「レジャー事業」の単一セグメントが適切であると判断したためであります。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円78銭	2円44銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	79,292	69,509
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	79,292	69,509
普通株式の期中平均株式数(株)	28,476,158	28,475,426
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの 概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月10日

伊豆シャボテンリゾート株式会社
取締役会 御中

KDA監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 毛利 優 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 園田 光基 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊豆シャボテンリゾート株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、伊豆シャボテンリゾート株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。